

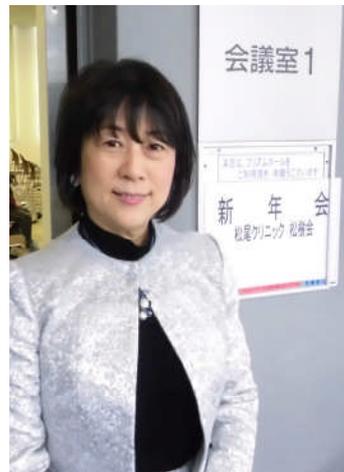
松樹会ニュース

編集・発行 医療法人 松尾クリニック ・ 松樹会 Vol. 42

「突拍子もない夢をもちましよう」

松尾クリニック

院長 松尾 美由起



あつという間にお正月も過ぎ、今年
はどんな年にしていこうかとお考え
の時期かと思えます。

最近は何でも携帯電話で調べたり、
写真も撮ったりと便利な世の中です
が、先日携帯の機種変更に行ったとき
のことです。その会社はとても厳し
く、毎日朝出勤すると自分のした仕事
量をコンピューターでチェックし前
日の仕事を反省、そして毎月お客様へ
の対応などのアンケートを集計し3
ヶ月間続けて標準点より下がるとや

めなければならぬというこ
とでした。どうしてそんな厳
しい条件のところ働くの？
と尋ねると社長の発想が素晴
らしいからと言います。

その社長はすぐ次のこと
ではなく30年後の世界のこ
を考えて携帯電話事業をして
るとか・・・たとえばもう

すぐ個人が一人ずつ時計型
の携帯電話を持ち、その携帯
電話で心拍数や呼吸数、血圧

も記録され、さらに今までの
血液検査などのデータがは
いつており、医療機関に行く
とどこでもその情報がわかり

健康管理ができる。いわゆる
ビッグデータの管理というこ
とでしょうか？それはすぐに
実現しそうですが、さらに300

年後には携帯電話で言語の翻
訳はもちろんのこと、テレパ
シーを利用してしゃべること
ができるようになるといい、
その時を考えていろいろと工
夫して仕事を考え、そのため
により後継者を育てる学校ま
で作っているとのこと。

テレパシーで会話できるよ
うになる頃には宇宙旅行なら
ぬ時代旅行もできるようにな
っているかも知れません。

夢は大きい方がよいし突拍
子もない夢を見るのはとても
楽しいですね！それが実現で
きる時を考えるとわくわくし

ますね。暗いニュースが多い
昨今ですがどんどん夢を見て
みましょう。



「原点に還る

30 年目を迎えて」

松尾クリニック

理事長 松尾 汎

松尾クリニックの開院後、今年で 30 年になります。

この間に、多くの方々の「健康」に関与させて戴きました。そして、それは、現在いる職員の皆の支えに依ることは勿論、加えて既に退職された多くの方々にも助けて戴き、今日まで継続してまいりました。

ここで改めて原点に還って、当クリニックの目標を振り返りたいと思います。

開院から一貫して松尾美由起院長が目標として、大切に維持してきたことは、「納得のいく質の高い診療」、「患者会を通じての患

者さんとの交流」、そして、「親身になった在宅医療」です。

納得のいく質の高い診療を

維持することは、もちろん、

医療機関としては当たり前のことですが、30 年近くも

維持することは、この間の医療の変化や進歩を考えます

と、決して容易なことではあ

りません。多くの検査法も進

歩しました。治療法も変わり

ました。そして、病気・疾患

自体も、時代の変化によって

変わってきました。高齢化や

生活習慣によって、大きく変

わってきたのです。「人生 50

年」から「人生 80 年時代」へ

と変化しました。当然、健康

にかかわる内容も変化してお

ります。それらの変化に対応

するために、職員全員一丸となつて、常に学ぶ習慣を持つように努めてきました。

患者会活動も、「病む方々と医

療関係者とが、一体感をもって

闘病に臨めば、もつと精神的に

も安定が得られるかもしれない」との思いから始められまし

た。具体的な活動は、「病気や治

療についての勉強会」を年 4 回

以上開催し、年 1 回の日帰り旅

行、そして書道、七宝焼き、太

極拳、手芸、生け花などの教室

を定期／非定期に開催していま

す。さらに、それら教室で完成

した作品を、年 1-2 回の「みんな

の作品展」で披露させて頂いて

います。

在宅医療は、十分に話し合い

を重ね、患者さんを在宅で支え

きるかどうかの見極めを行

い、患者さんご自身の意思はも

ちろん御家族の理解と協力が得

られるかを判断した上で、さら

に在宅での医療には限界がある

ことを御家族に了解して戴いて

始めています。また診療時間以

外の夜間や休日でも常に連絡が

とれるようにと、クリニックの

電話は転送できるようになって

います。急な変化への対応は、

多くの職員の協力なくしてはと

ても継続出来ません。これから

も、皆さんのご理解と職員の協

力の下、継続して参りたいと思

っております。

原点に還って、気持ちを新た

に、これからも皆で支え合って、

病に寄り添い、人生を伴に歩ん

で参りたいと思っております。

行事報告

「春のつどい」

平成26年5月10日(土)

プリズムホール

レセプションホール

《プログラム》

1. 講演 院長 松尾美由起

「認知症の狭間」

認知症とは脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなることで様々な障害が起こり、生活するうえで支障が出てくる状態を指します。認知症の症状は4つに分類すると、若いときはスツと思ひ出せたことが年を取ると手間がかかる、いわゆる下忘れのことを記憶障害といい、年月や場所、人間関係が分からない、季節感が薄れてくるといつ

た症状を見当障害といえます。

考えるスピードが遅くなった

り、二つ以上のことが重なると

うまく処理できないといった症

状を理解・判断力の障害、また

料理の手順を段取りよくできな

い、献立を考えることが出来な

いなどといった症状を実行機能

障害といえます。

認知症になる可能性のある軽

度認知障害と呼ばれる高齢者は

国内に40万人いるといわれてい

ます。

また認知症ではありませんが

全く健康な状態でもない、認知

症になる前の段階のことを軽度

認知障害といえます。

軽度認知障害の10人〜15人に

1人は1年でアルツハイマー型

認知症になり、何もしなければ

半数が認知症になるといわれて

います。

しかし適切な治療で認知症の

発症を防いだり、遅らせる事が

できます。改善方法として趣味

を楽しむ、食生活の改善や運動

不足の解消などライフスタイル

を見直すことが大切です。

また否定せずに肯定してあげ

る、話をする場合は25cmの距

離を保つことが重要です。

2. 菅まなみさん率いる

ジャズバンドのコンサート

菅まなみさん率いるズック&

ドアーズの皆様にジャズの定番

である「LOVE」、「テネシー

ワルツ」や「スマイル」など明

らかに軽快で素晴らしい歌声を聴

かせていただき、また松尾美由

をご披露いただきました。最後は皆さんもよくご存知の「上を向いて歩こう」を一緒に歌い、みなさんにとっても楽しいひとときを過ごせたのではないのでしょうか。



「ルシア塩満さんによる

アルパコンサート」

平成26年5月29日(木)

クリニック 2階 待合室

ルシア塩満さんによるコンサ

ートが当クリニックにて行われ

ました。今回は演奏活動25周年



記念ということでもマルティン・ポルティエーリョさんを招いてのアルパの演奏をお聞かせ頂きました。

「コンドルは飛んでいく」
「風に揺れるポプラ」、皆さんもよくご存知の美空ひばりさんの「川の流れるように」なども披露して頂き、間近で演奏される美しい音色に皆さん聞き入っておられました。

「夏のつどい」

平成 26 年 7 月 26 日 (土)

プリズムホール 研修室

《プログラム》

1. 講演 院長 松尾美由起

「結核：？」

非結核性抗酸菌症について松尾美由起院長よりお話いただきました。非結核性抗酸菌症とは水や土壌などに存在する菌で、結核菌とは違い人から人うつることはありません。数年から 10 年以上かけて進行していき、最初は全く症状がなく、進行するとせき、発熱、息切れなどの症状が現れます。以前は身体の抵抗力が弱い人にかかるといわれてきましたが、最近は健康な中高年の特に女性に多く発症しています。人への感染は全くあ

りませんが、完治することは少なく一生の付き合いになる病気です。発病には体の抵抗力が大きく関係しています。



「第 23 回みんなの作品展」

平成 26 年 11 月 27 日 (木)

プリズムホール 展示室

今年も素晴らしい作品が集まりました。



行事予定

「春のつどい」

平成 27 年 4 月 18 日 (木)

14 時～16 時



編集後記

プリズムホール会議室 1

立春も過ぎましたが、春とい
うのは名ばかりでまだまだ寒い
日が続きます。
風邪などひかないようお気を
付けください。